県消防広域化検討委員会が答申

県域7消防本部を

報告書を答申する宮迫委員長＝鹿児島市の県庁で

消防の広域化で組み合わせを検討している県消防広域化検討委員会（委員長・宮廻甫允鹿児島大学法文学部教授）は24日、宮廻委員長が県域を7消防本部とする最終報告を伊藤祐一郎知事に答申した。

最終報告を取りまとめた第7回会合（21日に開催）では、中間報告に対する市町村意見等について解説が行われ、県域7消防本部体制に条件付きも含め41市町村（賛成32、条件付9）が賛成、県域1消防本部が2市町、現状のままなどが3市町だったことを報告。

県に対する意見には、地域振興局・支庁を含めた県の積極的な指導と助言、構成市町村の格差是正で財政措置に国への働きかけ－などを求めている。また、広域化で①住民サービスを低下しないこと②島嶼（とうしょ）部を有する市町村に特段の配慮を③負担金は自賄い方式が望ましい－などが盛り込まれた。

20年度以降のスケジュールは、各構成団体で組織する運営協議会を立ち上げ、消防本部の位置や各種施設等の具体的な広域消防運営計画の策定に着手し24年度を目標に広域化を実現するとしている。

なお、県では、4月に各首長が出席する県政説明会や、各地域（7ブロック）ごとに説明会を開催する予定。

県屋外広告物審議会

規制対象町村 新たに5町村

屋外広告物の表示規格に対する規制対象町村は、三島村など新たに4町1村が増えることになった。24日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで第34回県屋外広告物審議会（会長・四本誠県広告協会長）＝写真＝が原案通り承認、今年7月1日から施行される。

表示規格は屋外広告物の高さ、形状、面積などについて協定により制限。平成16年の屋外広告物法改正で、広告物の表示制限の用件だった「人口5000以上の市街的町村」の項目撤廃により、菱刈・大崎・南種子・徳之島の4町と三島村の1村が「知事が定める町村の区域」に、新たに追加される。

表示制限の要件項目撤廃で県は同5町と協議を整え、今回審議会に提案した。条例施行規則改正で、非対象区域として残るのは蒲生・喜界・天城・伊仙・与論の5町と十島村の1村。

18市は自動的に規制対象区域だが、5町・1村は隣接する市との合併の可能性や屋外広告物のはんらんなどがなく、一定の景観が保たれていることなどを理由に協議が整わなかった。県は残りの町村について、20年度も協議を進める、としている。

南州コンクリート工業

生コンプラント完成

地鎮祭 安全操業を誓う

玉ぐしを捧げ安全を祈願する中西社長（中央）ら関係者＝日置市の南州砕石㈱本社吹上工場内で

南州コンクリート工業㈱（中西伸一社長）が日置市に建設を進めていた南州砕石㈱吹上工場内の生コンプラントがこのほど完成し、21日に竣工式および地鎮祭が行われ、出席者全員で安全操業と品質管理を誓った。

同市吹上町の南州砕石㈱本社吹上工場内で行われた地鎮祭では、中西社長をはじめ関係者が玉ぐしを捧げ安全を祈願した。

その後、同市伊集院町の十八番館で行われた完成内祝いでは、中西社長が「昨今の燃料費の値上がりに主材料のセメントの値上がりが迫っている。地産地消を前提に南州砕石を入れてマイナス要因をプラス要因に捉えるテーマを与え、コスト削減について協議を重ねた結果、砕石工場内に生コンプラント設置を決めた。これで、吹上工場を含め鹿児島市内に4工場の生コンプラントを有することになり、今後は社内独自で工場の集約化やコスト削減に努めながら納入サービスにも努める」と決意を語った。

引き続きプラント設置に関わったK&Kプラント㈱の福永喜久男社長と㈱三窪建設の三窪球利社長に表彰状と記念品が贈られ、無事故での完成に感謝した。

中町交差点アーケード完成式

街の一体感構築へ

鹿児島市の国道225号中町交差点上に、全国で初めてのケースとなる「国道上アーケード」がこのほど完成し21日、現地でテープカットなどのオープニングセレモニーが行われた＝写真＝。

完成したアーケードは、地上8・5m、幅11m、延長15・5mの鉄骨造。天文館はいから通りと中町コア・モールの両アーケードを連結し、同時に照国通り（国道225号）の横断歩道を覆う屋根の役割を果たす。高崎正治都市建築設計事務所が設計監理、植村組が施工を担当した。事業費は約3500万円。

事業は照国通表参道商店街振興組合（有馬勝正理事長）、天文館ハイカラ通商店街振興組合（吉永剛理事長）、中町コア・モール商店街振興組合（迫田博志理事長）の3商店街が、平成14年に検討を開始。18年6月に鹿児島商工会議所の構造改革特区の提案を機に19年1月、国が施行令を改正、事業を可能にした。

完成式では有馬理事長が「街で計画に取り上げ6年、工期は6カ月だったが完成して感慨深い。通りが結ばれ、街の一体感を生み出せる」と関係者の協力に感謝の言葉を述べた。

森博幸鹿児島市長は「振興組合は国を動かし法律を変えた。街の活性化と天文館ブランドを全国に発信できる」と挨拶した。

プレカット工場見学会

木造住宅をアピール

県木造住宅協組

加工後の木材を興味深く見る参加者＝鹿児島市の南日本プレカットで

「住まいのなっとく工場見学会」（あなたの家はこうしてできる）と題し県木造住宅協同組合が23日、鹿児島市谷山港1丁目の南日本プレカットで初めての工場見学会を実施し、来場者に木造住宅の良さや耐久性をアピールした。

会場では、普段は目に出来ないプレカット工場見学や金物工法によるモデル棟建て方実演を午前と午後の計2回行ったほか、親子で傘立てを作る木工教室や丸太切り体験も実施。

プレカット工場は、設計図の3次元データを基に、0・1㎜単位で横架材（土台、梁桁、母屋等）や柱材、羽柄材（筋違い、屋根や壁等の下地材）の加工や施工順序の番号を自動番付する。加工後に加圧式による防腐防蟻処理（マイトレックACQ）を行うことで、切り込み部にも薬剤が注入され、耐久性を高めることができる。参加者らは、精度の高さや加工の早さ、正確さに驚きながら最新の設備に目を丸くしていた。

案内役の貴島正美課長は「一般の方々にもっと、木の良さと木造住宅が耐久性にも優れ健康にも優しいことを肌で感じてもらいたい」と述べた。

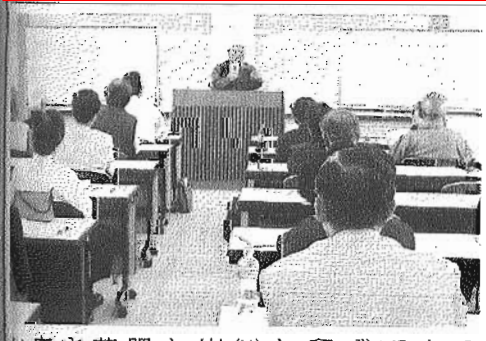
イベント実行委員長の田之頭隆文さん（図南木材㈱営業担当）は「お客さんの立場に立って、初めての試みで見学会を企画。今回を教訓に次回は、もっと充実したものとし顧客ニーズに応えていきたい」と語った。

バイオマスフォーラム

市民ら50人 利活用で認識

NPO霧島サンバイオ

NPO法人霧島サンバイオ（大坪徹理事長）は22日、霧島市の国分総合福祉センターでバイオマスフォーラムを開催、市民ら約50人が参加してバイオマスの利活用について認識を深めた＝写真＝。



フォーラムは、バイオマスの概要や霧島市・南九州市での取り組みなどについて理解することを目的に開かれた。田中健次郎県環境技術協会事業本部長による「バイオマスとは何か？」と題した演題でスタート。環境問題の変遷や温室効果ガス排出量の推移などを説明した後、田中氏は「バイオマスは動植物から生まれた再生可能な有機性資源で、代表的なものは家畜排せつや木くずであり、その観点から県の産廃の8割強を占める家畜ふんなどは立派な資源となりうる」と力説した。

また、輝北地球村主宰の沼田美修氏は、トウモロコシの価格高で鶏のえさにのこくずを使用し、安全な卵を作っていることなどを説明。さらに、㈱霧島エコバイオの岩下眞人氏は、焼酎かすと家畜ふんで堆肥を製造する過程の苦労話や事業の厳しさなど、ユーモアを交えながら解説していた。